

第5次総合計画基本構想に係る市民意見交換会・意見募集まとめ

1 意見交換会の概要

- (1) 日 時 平成27年3月20日(金) 19時から21時まで
- (2) 場 所 朝霞市産業文化センター
- (3) 参加者 11名
- (4) 内 容 総合振興計画審議会で検討している第5次総合計画基本構想(案)の市の将来像や基本概念(コンセプト)を踏まえ、どのようなまちにしていきたいかを参加者に伺った。

2 意見募集の概要

- (1) 期 間 平成27年3月21日(土)から4月3日(金)まで
- (2) 方 法 朝霞市ホームページに資料(基本構想案等)及び意見提出様式を掲載し、メール、ファクス、郵送により政策企画課へ提出いただく。
- (3) 意見数 3件

3 市民意見交換会及び意見募集で出された意見の一覧

	安全・安心なまち	子育てにやさしいまち		つながりのある元気なまち	自然・環境に恵まれたまち	その他
一 災害対策・防犯・市民生活	●住宅街 明るい場所をもっと作る ●犯罪のないまち ○災害時にあまりにも踏みとどまっのケースしか考えられていない。富士山大噴火など逃げなければ市民全員が死ぬかもしれないようなときにどうするのか。 ○小学生が一人で外出できる工夫(まちなかに地域の人が集えるベンチや東屋などを設けておくなど、地域の目が物理的に届く環境整備)					●苦情が少ない
二 健康・福祉	○解説文で、子育てが「平穏」となっていますが、そんなに平穏なことばかりなのでしょうか。波瀾万丈の子育てがどこかでうまくまとまっていくイメージにした方がよいのではないのでしょうか。	●中・高校生の「たまり場」をつくっていく ●街中に子どもの居場所 ●子供の預ける方法をもっとスムーズにすべき ●野外で子育てできる場所 ○「楽しく子どもを育てるための様々な支援が充実」という与えられるだけの子育て支援でよいのか。保育サービスはそういう面があると思うが、地域の子育て環境の整備は、公的施設の整備だけでよいのか。このままだと児童館を10館も20館も作る計画になります。 ○屋外で子どもを遊ばせながら育てられる場所 ○豊かな遊び体験が子どもの日常(放課後)にある(例:プレーパークの常設化や市内各所での出張開催の支援／屋外型の児童館)		○子育て中の親の孤立防止支援としての屋外型遊び場 ○乳幼児～大人が集える多世代型の地域拠点(屋外・屋内ともに) ○介護予防とか書くべきではない。陳腐化するアウトカムにならない。孤立防止とか、社会的弱者が他者とつながりあえる仕組みなどと書くべきではないか。 ○「健康づくりの取り組みの充実」という文章がまどろっこしい。何も意味していない。		●マッチング 支援する人・される人 ●福祉分野を重視してほしい
三 教育・文化	●彩夏祭の巨大化… ●彩夏祭では人が多く危険なことをする人がいる ●彩夏祭の時たばこをもって歩いていた人がいた	●学校がきれい ●質の高い教育が受けられる ●中高生が自分の力で社会活動をするまち ○虐待やいじめに体罰がない。教職員等子ども関連職員の暴力を放置しておいてよいのか。 ○子育て環境は、全ての子どもを対象にするのは無理。強行すれば全体主義になる。 ○教職員の資質は、急激な変化以前の問題。「心豊かな」教育委員会の方針が精神主義の教育になっていないか。 ○ライフスタイルにあわせた支援はできるのか。行政はライフコースを底支えする支援しかできないのではないか。その上で民間事業者や市民互助の力でライフスタイルにあわせるサービスを組み合わせるべきではないか。 ○塾通いが常態化するような学校教育の水準をどうとらえるのか。 ○想像が福祉・教育に偏っている。子どもが遊べる路地、公園などの確保、子ども会や青年団のような子ども社会の形成をどうするのか。 ○子どもの意見表明権やそれを支える仕組みについて明記すべき。		●スポーツがさかんなまち ●保護者会のつながり ●気軽にバスケ ●“パートナーシップ市民大学”の実施 ●フリーエリア公民館 ●公民館の利用法(もっと自由に) ●立ち話するところに座るところが ●スポーツが盛んであってほしい		

	安全・安心なまち	子育てにやさしいまち		つながりのある元気なまち	自然・環境に恵まれたまち	その他
マ 環境・コミュニティ	●嫌なことを言わない文化 ●マンション立入禁止を禁止する	●市民センター、公民館に小中校生のエリア ●お年寄りも子どももまじわれる		●人間関係が希薄である ●隣近所の連携(コミュニケーション)がとれるまち ●連絡先(電話番号)を教え合える関係のあるまち ●近所づきあいができるまち ●気軽に飲みに行ける ●現役の方々の「たまり場」づくり→土曜の午後 ●コミュニケーション話し合いが出来る場が必要 ●出来る事をやる (例)ゴミの置場のかたづけを出来るだけやる ●代々地元の方々の土地を借りる(儲けも良いほう) ●カラオケ大会ありき ●近隣との交流 ●お年よりのたまり場 ●縁台将棋 ●自治会のゼロベースのつくり直し ●面白いメリットのある自治会、風通し ●同じ顔しか集まらない ●雪かきのコミュニティ ●市民活動の高齢化 ●いろんなテーマで集まれる ○子ども会や町会の支援(希望のあるグループのみに) ○同窓会や保護者会、利用者の会など公共サービスを利用したりそこで巣立った人たちのコミュニティ形成は課題ではないのか。 ○市＝自治会とは別の、全国レベルの管理会社＝管理組合という別系統のコミュニティを形成しつつあるマンション管理組合が市民の5分の1を掌握して、商業主義的にコミュニティを誘導していることをどうするか。 ○市民活動支援が漫然としていないか。NPO 支援補助金へのたかりをさせているだけで、市役所の政策に協力／非協力問わず、少なくとも役に立つ市民活動を育成するよう抜本的に手を入れるべき状況になっていると思う。	●湧水を生かす ●川に親しむ人が常にいる ●緑地・空き地の保全 ●黒目川と共に出来る環境作り ●いかにして緑を残すか ●緑豊かな環境に良いまち ●生業ではなく仕事のあるまち ●お年寄りがまとめて動けるゾーンつどい ○武蔵野の面影のある緑地を市が保全する。 ○上記の緑地の管理を地域の市民が主体的に関われるしくみづくり ○黒目川の利用促進 ○市民を働かせる話ばかりではないか。役所としてできることをする、という内容がない。	●このような場に多世代が集う
ミ 都市基盤・産業振興	●病院の交通アクセスが悪い ●ビル・マンション等の高さ規制(条例)をつくりたい ●道で遊べる ●住宅地の私道問題については解決をすべき ●道路が狭い、細い ●道端に人があふれるまち ●ベンチがたくさん路地にある ●自転車道路をよりつくっていく ●生活道路と幹線道路を分けたい ●道路の整備 ●坂が多い ●宅地の集約化を図る ●電線地中化を進める ●道路を直す ●狭い道路に大型の車が入ってくる。危ない！ ●駅前何とかならないか ●駅前をにぎわいのある中心シンボル ●道によっては一方通行にする場所もあって良い ○(鳥館の整備により)大勢の人が鳥館を利用すれば、人の目が行き届き、安心、安全につながる。 ○交通安全は相変わらずクルマ社会を前提にして、交通弱者の自助による防衛論になっている。 ○住宅の老朽化や、管理不全の共同住宅などへの不安は言及がない。 ○公園や生活道路などで町会や子育てグループが小さなイベントをするなどの占有利用がしやすい規制緩和をしてつながりづくりを支援	●野外で子どもを遊ばせられる ●路地に子どもが走りまわっているまち ●地産池消、特に「産」を作る ●地元で働く場 ●放課後の子どもたちの居場所として商店街のカフェ ●遊べる朝霞 ●家が近く旅行に行かなくても ●“まちなか” ○・(鳥館の整備により)フクロウカフェで触れ合ったり、可愛い小鳥の姿を見るのは、子育てに良い	【子育てにやさしいまち、つながりのある元気なまち共通意見】 ●30余の公園活用の検討 ●“道の駅”をつくる	●気軽・手頃に買い物 ●朝霞駅商店街の活用 ●交通の便利さ(高齢者) ●声のかけあう商売のあり方 ●なりわい ○(鳥館の整備により)人の集まる場があれば、つながりが生まれ、楽しみがあれば、元気になる。 ○商店街の活性化が、まだ働く場と活性化しか視点がいつていない。それでは外来のコンビニでよいということになる。市民を見守る、つなげる役割を評価すべき。 ○商業の活性化に消費者ニーズに対応させることが重要なのか。何やっても池袋や有名ショッピングセンターに叶わないものもあり、きちんと役割分担して住宅地で可能だったり必要な商業の活性化に絞っていくべきではないか。漠然と活性化とやっている限り、中途半端。何でもやろうとしないで、豊島区などと連携協力していくことが大切なのだろう。 ○起業能力もない役所による起業支援より、勤労者として安定して働けるための施策や支援が必要なのではないか。勤労者に関することが何も書かれていないことがこのまちの勤労者のおかれた地位を物語っている。 ○朝霞市のつながりと活性化のためには、バスだけではなくタクシーや鉄道の活性化も重要。市民の多くは鉄道を使っている。 ○転入開業者、新規開業者の誘致は、あまり効果のない起業支援より事業目的の不動産の家賃や敷金を抑制させることではないか。	●街路樹を強剪定→隙間剪定 ●様々な場所で緑を増やす 道など ●基地跡地の早期地元利用実現 ●基地跡地の中を通れるだけでも ●市民農園はやめて大きな農園に ●みんなで使える大きな農地 ●農地の景観 ●コアのあるまち ○(鳥館の整備により)鳥館のまわりは緑を残す。鳥館を見たり、緑の森を散歩すれば、自然、環境に恵まれたまちだなと感じる。 ○自然保護に偏重している。土地利用の規制、適正化に何の言及もない。	●広い家に住めるまち ●引きつづき東上線が便利でありますように ●商店の家賃下がれ ○【考え方】 商業に力点を置く 財政力が向上する 市民サービスが向上する 市民生活が向上する ○【具体案】 ・基地跡地に観光施設として鳥館を作り、入場料を得る。 ・鳥館に来たお客様を商店街に導く。 ・政策分野の一つに労働を追加すべきである。働くことにまつわる問題、働く人を支える問題は、ベッドタウンとして重要な課題なのに、ほんとうにバカにされていると思う。市長は連合埼玉に推薦もらっているのではないか。 ・公園利用に関する苦情を減らすための、公園の住民による主体的 な維持管理と運営

	安全・安心なまち	子育てにやさしいまち		つながりのある元気なまち	自然・環境に恵まれたまち	その他
基本構想を推進するために	●必要な？道路については地方分権とすべき ○事例があまりにも固定観念。 ○人権侵害への保護、ものを言うことへの安心感がこのまちには欠けていて克服が必要(市役所の多くの部課で問題を相談すると「誰、誰、」と犯人さがしをとして(それで先入観もって事にあたるのでこじれる)「何がどうした」「どう解決したいのか」ということが二の次になっていることに不信を持つ)。	●男女共同参画		●いろんな市民の意見のバックアップ ●働く人の世代への情報(SNS) ●人が色々な立場になれるまち ○職員のあり方も問われるのではない。県庁の政策・事業の垂れ流しで官僚のミニチュアでいくのか、問題発見して動くコミュニティワーカーとしていくのか、問われてくるのではない。		●市民力アップ ●建物以外のインフラの更新の費用 ●希望、望みを聞いてくれる行政窓口が必要 ●市の建物の更新、耐震化の費用が大きくなり、予算が心配 ●市民が意見を言う場 ●双方向 ●市が原案を出すやり方を変える ●地元とここに出てくる人の意識の差 ●消費者でなく生活者に ●情報戦略 ●行政は旗振り役で良いのでは！ ●フェイスブックで様々な情報を発信
全体	●子どもが安全・安心に暮らせる ●私が政治家でいる必要のないまち ○25年後の、団塊ジュニアが高齢化することに向けた政策準備を書くべきではないか。	●子供がいきいきできるまち ●子どもの声がひびきわたる ●子供が住みたいと思えるまち ●子供が楽しくすごせる ●子どもにとっての 20 年後	【子育てにやさしいまち、つながりのある元気なまち共通意見】 ●子供がたくさんいるまち	●好きな事が出来る・ある町 ●リタイアした人々の能力を発揮させていく ●産業と市民活動が仲良しなまち ●朝霞の森でイベントを！ ●便利屋、御用聞き ●母(女性)と子供が集えるまち ●リタイアした人を生かす。もったいない ●仕事以外の楽しみ、価値があるまち ●市民同士で、市内でよく飲みに行くまち ●自治基本条例 ●若い人の参加 ●行政への市民参加 ●つながれる ●人づくり ●人とつながる ●論議をしていくまちづくり		●自己責任でやる！ ●投票率が高い ●(40 代)団塊ジュニア問題 ○市議選や市長選などに多くの市民が関心を持つようになる。暮らしと政治の距離を縮める(例:選挙に行くとき市内の飲食店で使える割引券がもらえるなど) ○基本コンセプトは 8 割納得しています。すべての政策がこの 4 つの視点で考えるということなら不十分なコンセプトであってもよいと思う。 ○その説明文や事例が課題。 ○基本コンセプトの解説文は接続詞が多い。接続詞が多いということは、かなり無理な論理になっているのではない。また文章がまどろっこしい。接続詞を取ってもう一度文章を作り直すべき。 ○事例に、「取組を推進」など何を言っているのかさっぱりわからないものがいくつかある。 ○事例がアウトカムにならない。関東軍の暴走みたいな政策に修正がかからないことを直したい。 ○「思いやりをもったまちづくり」に反対はしないが、精神主義的なものでよいのか。人権は人権ではないか。特に保護的な人権問題ばかりで、意見表明権、参加する権利などに対する「思いやり」も必要。 ○ユニバーサルデザインは、「分け隔てなく」を追加すべきではないか。心がけだけマイノリティのことを考えているのに、バリアフリー工事を邪魔だの予算のムダ遣いだの言う声が後を絶たない。障害者施設の建設計画を住宅地から追い出した事例もあった。 ○「一人一人の市民にあった多様なまちづくりへの参加」って可能なのか。「一人一人の市民にあった」はいらないのではないか。 ○一人一人は一人ひとりではないか。 ○市民が税金をむしり取られる客ではなく主権者と考えると、「参加の機会を提供し」ではなく「参加の機会を保障し」ではないか。大事なところである。 ○意見の違う人、考え方の違う人がいることを前提に合意形成していくことがどこにも書かれてない。 ○①に関して、アウトカムを何らかのかたちで明記すべきだ。 ○②「最小のコストで最大の効果」は改めるべき。「最小のコスト」に過剰な期待をかけられるために、ワーキングプアが製造されたり、障害者雇用の場が奪われたりしている。市内限定で発注することなども矛盾になる。コストと効率性の問題は、持続可能性と説明できる合理性を重視した方がよいのではないか。 ○また 2 つの文章を入れ替えて、人材育成を重視した方がよいのではないか。ゼニカネの問題は誰でもがわかる問題で、地域を担う人の育成や仕組みづくりの方が危機的状況である。 ○この用紙が書きにくかったです。またどういう修飾がされているのか、何かおかしい動作をしています。ファイルも重たいです。

